

第3回久美浜学園学校運営協議会

協議会長開会挨拶

今年の冬は、近年で珍しい、長い寒波と大雪になりました。2月もあと1日となり、春もすぐそこまでという季節になってきました。公立高校の入試も、前期は終わり、来月7日には中期の入試があるようです。

学年末を迎えていますが、今年度はコロナの若干の名残りやインフルエンザの流行等もありましたが、以前の日常がほぼ完全に戻って教育活動も全開だったようです。

その教育活動の状況や学校運営協議会の状況のまとめにつきましては、事務局からご報告があろうかと思いますが、本日の会議では運営協議会としての今年度のまとめもしていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

ちなみに、毎年委員さんには積極的に会議に出席していただいておりますが、とりわけ、今年度は特に出席率が高かったということでした。

例年は部会別交流、また校区別交流で行われ、去年は全体交流でしたが、今日は少人数グループでの交流、意見交換を準備していただいております。視点的には、小中一貫、保幼小中一貫教育になってから9年目が終わります。来年度は10年一区切りの最終年度になりますので、この間を振り返り、気づきを交流していただくこと、次の新たな10年を見通し、どう展望するかが問われています。

もう1つは、一貫して言われていることが、学校運営協議会の役割は「学校の応援団」であることです。応援団とは、大きくは学校や子どもたちの教育活動を応援し、保幼小中の連携を応援すること、学校と協議会が日常的に交流し、関係作りをしていて、なんかあった有事の時に学校を応援して取り組める関係であることだと思います。

具体的にはこれまで続けている「登下校の見守り活動」や「挨拶運動」、さらには、「子ども広場や遊び教室」などの子どもの地域活動の支援、またゲストティーチャーなどで学校の教育活動への協力で、学校と地域を「つなげる」役割というようなことかと思っています。

加えて、これからの新たな役割についてや、今のICTを活用した学習についての思いや感想等の交流、要望も出していただけたらと思います。

それでは、本日の会議が、さらに学校との連携が高まり、有意義なまとめの会になることを期待しまして、始めのご挨拶とさせていただきます。

学園代表校長開会挨拶

本日は大変お忙しい中、本運営協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。

先ほど会長様からもありました通り、学校としましては、いよいよまとめの時期となってきております。各園・所では卒園式、各学校では卒業式に向けて取り組んでいるところです。また、京丹後市保幼小中一貫教育の良さを生かし、卒園する園児については園・所と各小学校が、卒業する小学生については各小学校と中学校が連携を図っているところです。つい先日、中学校の教員が3小学校の6年生の授業を参観させていただき、生徒の様子を聞かせていただいたところです。京丹後市がすすめます保幼小中一貫教育を十分に活用し、それぞれの新入生にとって、幸先の良い4月が迎えられますよう今後も十分に連携・協働を進めていきたいと思います。

さて、本日の運営協議会を開催するにあたり、先日運営協議会役員会を行いました。その中で会長様とお話をする際、進路についての話が開会あいさつでもお願いしたいと伺っておりますので、本日までの本校の進路状況について報告させていただきます。

2月10日に行われました私立高校入試では専願希望10名を含む27名が受験をいたしました。また、17日に実施され一昨日に発表となりました公立高校の前期選抜試験には24名の生徒が受験し、それぞれに結果を手にしております。この後3月7日には34名の生徒が公立高校中期選抜に挑戦する予定となっております。

新聞報道にてご存じの方もおられるかと思いますが、現在、丹後管内の公立高校ではすべての学校で定員割れを起こしている状況であり、かつて口にされていた「勉強しないと高校に行けない。」ということではなく、本人が望んで受験すればほとんど合格する時代となっております。そういう点に置きましても、このあと熟議していただく「育って欲しい子ども像」として、学んでわかる喜びや仲間と協働する楽しさ、素晴らしさを得られるような教育が求められていると感じております。

また、今後10年を見通しますと、現在200名が在籍している本校生徒数は144名となり、全校生徒56名の減となります。さらに久美浜町を含みます京丹後市全体をみましても概ね200名の中学生が減という時代となります。少子化の波は全国のみならず、当然この京丹後市、久美浜町にも押し寄せてきており、その中でどのような教育実践、各家庭との協力、地域との連携を図っていけばよいのか、このあとの意見交流の中でお知恵をいただければ幸いです。

どうぞこの後もよろしくお願いいたします。

1の1グループ協議

・子どもたちの成長を日々確認しながら、地域の方と協力して取組を進めてきた。学力の面で言うと高学年になると差が出てきたのが気になる。先ほどの話にもあったが、中学生が高校に上がるとやっぱりみんな頑張っているんだろうなという感じではある。でも地域の方の子どもを見る視線が大人の世界になっている。コロナの時に比べるとやっぱり充実した1年になったと思う。

土曜お楽しみ会は、海部の方が世話をしておられる。それにしてもすごい取組で、地域の子どものためにと思っても、なかなかできることではない。

・今年の6年生は、高龍小の子は馬力があるなあというのが感想。子どもたちはすごい活発で元気がいい。部活動体験なんかをさしてもらったが、体も大きいし身長も高いし、もう大きい子は本当に大きい。中2、中1ではまだ小さい子もいるので、大きい子が来たときびっくりする。

・家ではゲームばかりやっているの、「何しとるんや」と怒ったりしている。今日ラジオでやっていたけど、東京の中学生の携帯所持率93%だと言っていた。中学校に上がると、スマホじゃないけどラインのような機能がついた方がいいのかなと思って、この3月に検討している。持ちたいと言っているが中学校は規制があるんですか。「学校に持ってくるな」は規制としてはあるが、持つことがあかんということはない。

・少し前だと携帯持っている子が没収され、下校するときに返されたというようなことはなかったか。学校には基本的に持ってきてないので、持ってきてはいけませんにしてある。家で使うとは言わない。それこそ遊びに土日に行っていてカバンに入っていて、「先生、持ってきてしまった」ということがあると、それは学校には必要ないで、それこそ預かって、また帰り取りに來いよ、ということはある。でもまあ年間に5回もあるかないかぐらい。基本的には持ってこない。学校から帰って塾とか行く子の迎えとかあると思う。スマホを学校に持っていったというパターンもあると思うが、塾の終わり時間は決まっているので、そこに電話なしで行ってもらおうとか、あと少女バレーに行かれる子どもさんとかも。

・小中学生にはタブレットが1人1台支給されている。授業で使ったり家での学習で使ったりしている。おうちのwi-fiにつないで家でも使う。小学校を出る時には一旦返却する。小学校に何台、中学校に何台と決まっている。卒業する3年生の子のを1年が使う。ちょうど保証期間が今年で切れるので、令和7年度で違うタブレットに変えなければならいかなと委員会では検討している。具体的にいつどれにするというのは決まっていな。

・勉強の仕方変わった。すごく便利ではあるけども、秋のSNSの講演会じゃないけども気を付けなくてはならないこともある。どこまで親が関与していいものかという声もあったりして。世間では闇バイトもあるが、遠くの町の話でなく京丹後にも来たということだった。よその国の話じゃなく京丹後の中学校、うちではないが、約束がどうだこうだということがおこっている。そういう時代には子どもたちが生きている。それを守るのには親であったりする。でも、親が関わっていないところでパッパッとさわれる。そして気づいたら何十万もの請求がきている。恐いなあと思って話を聞いていた。

・それこそ、いいですか、ほんまですかと2回聞いてくると思うんですけど、いろんな契約ってダブルクリックしたら成立するそうです。ワンクリックでは契約は成立しないはずなのに。だからワンクリック詐欺っていうんですけど。子どもってカチャカチャってしちゃう。だから、そういうサイトには行かないとか見ないとかって本人が自覚しない限りは、親が止めるとか学校が止めるとかというのは限界がある。すごく便利なものだけど、怖いものだっていうことも一緒に教えるというか、便利なアイテムだが、子どもに渡すとき教えていかななくてはならない。ただ、残念なことに我々が小さい頃にそれを持っていなかった。だから親から「あんたそんなことしとったら」と教えてもらったこともないし、子どもの頃、例えばスーパーの駐車場で走り出したら「危ない」って言ってもらえたけど、今スマホが「危ない」って言ってくれない、それはやっぱり怖いことだなと思います。

・これまでの10年、その次の10年はどうなるか考えてくれとか言われても予想がつかない。AIとかいろいろなものが入ってきて、ここに来て授業を見せてもらって、電子黒板とかみて、「書いて覚える」ということが当たり前の時代からずいぶん変わった。昔は授業中もひたすら書いていた。書いていて時間のロスとかもあったけど、今はそういうことがない。便利だなと思う。字を書くということがない。どうかなとも思う。

・録音してアプリで読めば字にできる。2時間研修して話を聞いて、アプリでやれば全部字になる。ちょっとだけ誤字とか方言とかは修正しなくてはならないが。前は、録音を聞いて字にしていた。そもそも字を書かなくてはならないのか、時代がそれを求めているのかというところ難しいところだ。インプットはできていてもアウトプットはできない。

・実体験をして、それが記憶に残っているいろんなことに応用できると思う。やっぱり五感を育てることが大切。匂いを嗅いだり、耳で音を感じたり、そういうことを大事にしてこども園ではやっている。小学校に行き、授業の様子を見たり体験で交流させてもらったりした。電子黒板で歌を歌うけど、伴奏も全部ダウンロードしたもので、歌が始まる。こども園だったら先生がピアノを弾いて歌を歌うけど、小学校は伴奏とか練習しないでいいんだと思った。スイッチを押したら曲が流れるし歌詞は出てくる。子どももそれに慣れてるから、それに合わせて歌っている。

・でも、それが昔は良かったんじゃないかなと思う。先生がピアノを弾いているから、一緒にやっているという感じがしていた。時代の流れで。絵本も、1ページ1ページめくると次が出てくる。今は、一方通行過ぎてやり取りが薄れているような。そういう対話的なことを一生懸命しているのに、なんかすごく悲しいなって思ってしまう。便利だなと思うが、心とか情操的なことが育って、やっぱり人のぬくもりや対話とか温かみを感じて欲しい。

・そういうことになると、学校へ来る必要もなくなる。人と触れ合いとか対話とか、学校は楽しい、友達がいて先生がいて仲間がいて、昔ながらという環境がいいと思うが。

・向こう10年、やっぱりそれっているんだと思う。

- ・中学生は喧嘩をしない。「先生、あの子うるさいでうるさいって言って」とか言う子がいる。「自分で言えや」と言うと、「言えん、どう思われるか分からんし」ということだった。ストーブの煙突で、熱いと思わなくて何人も火傷をするということがあるそうだ。ストーブは火が見えているので熱いのは分かるが煙突は分からない。小学校は網をしたりしているのだから。中学生は煙突が熱いとは思わない。経験としてわかっていない。
- ・ICT機器がどんなに便利でも、泣いたり、笑ったりという経験は必要。合唱祭、子どもちがラジカセで練習して、伴奏が止まっても歌って、助け合っということが、必要だと思う。運動会では、大縄跳びで怪我をすることもある。引っかかって骨折とか念座をするということもある。ルールを変えていかないとけない。
- ・保育所でも縄跳びはする。みんな力を合わせてやっている。小学校は八の字跳びで大縄跳びはしない。
- ・教科書にはない勉強をしていかななくてはならないし、それを残していかななくてはならない。
- ・地域でも、運動会で大縄跳びをしている。やり方を考えることも必要かも。運動会の種目も、昔みたいに年代別とかできにくくなっている。女性が少ないとか、人が集まらないとか、どこかの集落と一緒にになるとかならないとか。
- ・佐野の集落で4軒ぐらい移住者が入り増えたところがある。馬力、エネルギーがあることが大事。
- ・学校で教えていかななくてはならないこと、人と人とで人を教えていかななくてはならない。お手伝いでも、家でコメを洗ったり、皿を洗ったりしているけど、昔だったら、畑に行ったら田んぼに行っということがあったが、そういうことは減っている。共働きが多いし、今は機械を使うので子どもはすることがない。危ないで離れとけということになる。昔は畑に行ったらやらされたり、内緒で機械を運転したりしていた。今ははなからやめとけとなる。やらせてみるということも必要なのかもしれない。土曜お楽しみ会などの遊び教室でも、学校ではできないこともやらせてもらっている。
- ・家でこうしてくれと言っても、忙しくてできるかいやというも多い。昔は同居だったけど、今は違う。うちは、昔、9人で住んだった。風呂に入るのも順番だった。相手のことを考えることも必要だった。仲間を大事にできる。そういう思いが育った。そういうところも課題になる。育てたい久美浜の子、もともと温かい子どもたちなので、10年だろうが残していきたい。
- ・中学校の地域ボランティア、昔は先生がついていったが、この頃は地域にお世話になっている。「おっちゃん、なんかさして」ということで、公民館の掃除に行ったり、公民館の障子はりさしてもらったりした。じいちゃん、ばあちゃんのサロンをするので一緒に来てと言ってもらった。「ええで、受け入れちゃるで」と言ってもらえる。中3ぐらいになったらわきまえているので、勝手にお世話になっている。それを受け入れてもらっている街が素晴らしい。
- ・授業も変わってきた。1人でする、2人でする、4～5人でする、ということをしている。パッと見たらわちゃわちゃやっているという授業。黒板にチョークで書くということがあまりない。できた子はタブレットでデータを提出する。
- ・見に行ったとき、1人の子もいるし、グループの子もいるし、他の子と通信する子もいる。離れた他校とすることもある。見た時は3校で繋がってやっていた。学園でも、児童会生徒会合同会議は4校で通信を使ってやっている。画像を見ながら、アルミ缶回収だとか、ペットボトルキャップ集めだとかを確認している。しっかり分離型保幼小中一貫教育を意識しながら進めている。
- ・漢字辞典、国語辞典など使うことがない。全部ネットで調べられる。で使わない。電子辞書の会社がなくなったという話は聞いた。分厚い辞書を持ってくることはないし、辞書で調べなさいと言うことがなくなった。パソコンで困ったことはパソコンが教えてくれる。パソコンのことを人に聞いたりしないし、聞かなくても良くなった。
- ・いろいろな話ができることが、この運営協議会の価値だと思う。

1の2グループ協議

- ・民生児童委員は、各地区で見守り活動をしている。こうりゅう虹こども園では横断幕を作っていて、5歳児も一緒に挨拶運動をしてくれる。佐野は、地元、永留交差点、小学校と分担し、順番に月2回やっている。中学校は常務で行っている。子どもたちの様子はよくわかる。地元で挨拶運動をしているが、時間通りバスが来る。コロナの時から手指消毒をバスに乗る前にするようになった。中学生はだんだん大きな声で挨拶をしてくれるようになっていく。
- ・民生委員と見守り隊を兼ねている方はおられるか。いることはいるがあまり多くない。民生委員はジャンパーを揃えている。雨の時のための大きな傘も統一して買っている。
- ・学校の支援に入っておられるのがすごいなあと思う。他の旧町地域はどうなっているのか分からないがこれが当たり前なのか、久美浜に特化しているのか。そうだったら広めないといけない。他の町も挨拶運動をやっているが、久美浜が活発だと思う。
- ・今日、学校のホームページを更新したが、京大の先生が来て久美浜湾の「すなもぐり」の話をしてくれた。4年が学習しているが、ここにおられる民生委員さんが学校に来て、タツノオトシゴの話をしてくれたのがきっかけになっている。その繋がりでも、自治会長の紹介で京大の先生が来てくれた。子どもらは目の色を変えて、これが砂を食べて久美浜湾をきれいにするのかと聞いていた。自治会長は、久美浜湾をきれいにしようと考えているということらしい。
- ・タツノオトシゴのことを話したのが11月で、タツノオトシゴが出てくるのは6月だった。
- ・「10歳を祝う会」の4年生の発表で久美浜湾の漁師になると言った子がいた。このしろ寿司の商店を継ぐという子もいた。このしろ作りのおじさんの苦労を知って「僕がやる」と言っていた。

・協議会長にも学校に来ていただいて、米作りの話をしてもらった。スマート農業に取り組んでいるヤーマンさんも来て話をしてもらった。歌も歌ってもらって、大フィーバーだった。親にもファンがいて、年末に温泉の前へのスナックでコンサートをしたら子どもらも行ってえらく盛り上がりっていたそう。そんな繋がりができた。

・湊は見守り隊という感じではないけど、民生委員2人でバス停まで一緒に歩いている。朝は子どもらのテンションが低い。金曜日になると元気になる。子どもらが集まったらすぐバスが出るので、早く学校に着きすぎると言われているようだ。久美浜小には第3火曜日に民生委員が行っている。

・こども園の評議員をしている。もう10年ぐらい、うちの娘と主人がトナカイとサンタクロースをしてクリスマスにボランティアで行っている。なんでうちかという、うちの近所に子どもがおらんので、主人が行っても誰か分からないので都合がいい。誰かのパパだったらばれたらまずい。子どもたちは、本当にサンタが来たと言っている。娘は「なんでトナカイは人間なの」と言われている。あそこに行くのは楽しみにしている。子どものプレゼントは園が用意する。子どもたちが作った大きな置き物をもって帰ってくる。こども園の子らと接する機会はあまりないが、支援センターに行っているの、あの時の赤ちゃんがこの子なんだと思うこともある。

・こうりゅう虹こども園に、子どもが行っているの、田植えに行ったり稲刈りに行ったりしている。

・学校運営協議会に入ったきっかけは？ 民生委員会長の充て職で入った。～さんは評議員。入口が充て職ばかりというのが気になる。何でもない枠から入ってくるのも良い。そういう人を頼んで引っ張ってくるという方法もある。入ってみたいとわからないこともある。希望でやってみたいという人もいいのではないかな。

・民生委員会では学校運営協議会のことは報告しないが、常務の中に学園関係者がいるので様子は分かる。また、各学校では民生児童委員との懇談会があって、一貫教育の話はする。どの学校でもペットボトルキャップを集めているということなどはみんな知っている。

・区長幹事会からは副会長と2人出ているが、会議要項にここの話をする項目があがっている。時間は少ないけど話はする。でもほとんど伝わらない。雰囲気分からないから仕方がない。課題意識が薄くて、区のことをなんとかせんなんという気持ちの人が多い。区長会に学園から説明に行かせてもらっても、案件が多いから早く終わってくれみたいな雰囲気になることもある。仕方がないことだが。学園たよりも地区回覧になったので、なかなか意識がそこへ行かない。ペットボトルキャップは中学生がないかと言ってきてくれる。たまたま区の会議に出た人が「あの子を取りに来るので渡すんだ」と言っていた。区の方に言ったらもっともっと集められるなと思っていてもったいないと思う。子どもらもずうずうしくないから頼みに行かないし、小中で取り合いになることもある。甲山は回収場所に「ペットボトルキャップをかぶと山小に持って行ってください」と張り紙がしてある。神野地区はみんなそうなっていると思う。私たちは分かっているの、子どもに持って行かせたりしている。もっとたくさんあると思うが…。

・与謝野町から見て…うちの地域の学校はバス通で子どもは見たことはないけど、そこに地域の方が出ているというのも聞いている。廃品回収があるが、それは区の中でチラシが配られる。与謝野町は、小中一貫ではなく運営協議会はない。京丹後市の運営協議会も、最初はPTAと一緒にではないかとも言われていたが、活動を10年もしていたらすみ分けができて、ここの機能はPTAではできない縦割りの集団ができていく。いろんな情報が入りやすく、やっぱり大事にしないといけない組織だなという感じがする。

・運営協議会に入って、いろんな団体の取組がよくわかる。

・学園のたよりが回覧になった。2年前までは全戸配布していた。3000枚を印刷し、仕分け作業が大変だった。輪転機でもインク1本なくなる。高速プリンターでもトナー代がかなりかかるので、月1回以下しか発行できない。回覧にしたらあまり読んでもらえないということもわかっているが、月2回出せる時もある。区長にしたら、そんなめんどくさいものを入れるなという声もあるそう。自治会で印刷してもらうこともできるかもわからない。小学校のたよりは、全戸配布。多分1000枚はいかないと思う。最近はテトル（通信）とかで配信になっている。地域には（通信）手段がない。高龍小の民生児童委員はテトルで連絡が来る。保護者と同じものが民生委員に来る。かぶと山小にもお願いしている。久美小は見守り隊にも入る。紙代がめっちゃくちゃうるので事務が喜んでいる。カラーだし、拡大もできるし。地域に配信する方法はないか。自治会に配信できる方法があればよい。市民局がしていない。活性化協議会で言ってもらい、自治会から区長へ、区長から区民へ配信できる方法ができるとよい。伝える人と伝わらない人が出てくる可能性はある。

・ICTの授業、課題とこれはいけるというものは、→ツールを使ってできることはたくさんある。より良い活用の仕方を今後追求していかなければいけない。使えるけど、力がつかなかったらダメ。今の子どもたちはよく使う。どんな使い方をさせるか、それを使って人とつながることを最大限させる。子どもに力がつくようにする。

・宿題がまだ先生から来ないという時もある。紙だったら確実。まだ紙の方が多い。タブレットに対応できるようなドリルもある。苦手なところはやり直しができるような賢い使い方もある。

・孫なんか見とって何をやっているか全然分からない。「できたんか」というと「できた」と言ってパタンと閉じてしまう。

・この前、ICTを使ってめちゃくちゃ良かったことがあった。鳥取県の岩見町、その学校とズームを使って発表会をした。雪のよく降る日だったが、同じところで学習ができた。こっちは6年生で、むこうは5年生だった。山陰海岸ジオパークのことだったけど、むこうはよっぽど久美小より進んでいて、プロのレベルで勉強していた。豊岡の推進協議会に紹介してもらった。その学校がよく進んでいるということだった。負けました。そこは5年生だったのに。

・今週ジオパークの発表会があって、行った兵庫県の小学校が虫のことを発表していた。すごいなと思った。向こうは進んでいる。

・タブレットは、学校では、ほぼほぼ毎時間使っている。教師によっては最初の5分しか喋らない。子どもがほぼ自分でやっている。教師も誰がどこまで進んでいるのかタブレットを見ればわかるので、進んでない子のそばに行き指導ができる。

- ・裏を考えるとコミュニケーション能力が心配になるが…。30分ほどは自分でやって、残り10分は友だちのところへ行って「こんなんできたけど」と言い合ってアウトプットをする。ひたすらやるだけではなくて。
- ・すごく変わってきた。以前のグループ学習は、最初に説明をしっかりとって、それからグループ学習に入った。45分のうち15分でもグループで学習すればOKだった。去年から全く変わった。ついていけない。教科書にQRコードが付いているのもびっくりする。
- ・字を書かない。それでいいのか？ほんまに覚えられているのか。国語ではやっている。紙にも書いている。漢字のはね、はらいとかできるのだろうか？

2の1グループ協議

- ・こども園の発表会では、子どもたちが考えたことを劇にした。おどりがおどれるようになったとか、竹馬とか一輪車ができるようになったことなど、1年間の成果を発表した。やらされているのではなくやりたくてやっているというところが良かったし、お家の方もそのことの評価をしておられた。今は赤ちゃんの時から園に来ている。積み上げてきた力を発表できた。
- ・二区子ども広場は、6月29日から7回やった。あと2回計画している。今までと変わったことは、来る子どもの数が増えたことと、小学生以下の保育所の子が来るようになったこと。保護者も一緒にされる方がかなり多くなり、すぐ帰られないので、こちらは助かっている。子どもと保護者のほのほのとした姿を見られる。久美浜ならではのことをやっている。人気があるのは魚釣り。地域の方に温かく見守ってもらっている。
- 2、3年前から、甲坂に大学生が研修に来ていて手伝ってもらっている。遊んでもらったり、大学生が企画してくれたことをしたりする。2月22日に市の職員さんに大道芸をしてもらった。あと2回のうち1回は、地域公民館の取組によんでもらって、日曜日にしてもらう。自分が考えているだけだが、一度、チャレンジ教室と土曜をお楽しみ会と一緒にできたらなあと思っている。何をやっているか、情報交換もしたい。
- ・公民館として、1年を振り返って子どもたちのことで何ができたのだろうと反省している。地域コミュニティが4月から始まり、公民館が移行する。横の連携がなくなる。いいのかなあという感想も出ている。各地域では子どもを対象にした事業も積極的にやってもらっている。公民館として子どもとどう関わっていったらよかったかと思っている。
- ・こうりゅう虹こども園の発表会を見に行ったら。子どもたちはやりたくてやっている。なるほどなあと思う。教育現場では、自主性とは「与えられたことを前向きにやる」主体性とは「与えられなくても自分で課題を見つけて、こんなことをやってみたいなと進んでやっていく」という意味で使う。これからどうして子どもたちに力をつけていくか。教育現場も地域も、大人が主体的な力をつけていくように子どもを育てることが大事。園の歌を歌った時、先生も一緒に歌っていてすごいなと感動した。子どもと先生から熱いものが伝わってきた。主体性と自主性、これからも考えていけたらと思う。
- ・いろんな団体が素敵な活動をされていることが久美浜に来てよく分かった。高龍小は地域の協力がある。朝の見守りから下校までいつの間にか出てきてくださる。「感謝の会をしたいから、ボランティア登録してください」と言っているが「目立つことはいらん。できることをさせてもらう」と言われる。いつも、地域の方が声をかけてもらっていることがありがたい。子どものために活動していただいている。
- 小学校の教育も過渡期に入っている。タブレットが1人1台入った。まずは使おうと、授業の中でどんどんさわってみようとやってきた。今は自己調整力つけようとしている。自分で振り返って、自分にあった学習をしていく。何ができていないかを考えさせる。タブレットを使って効果的なものは何か、子どもに任せて大丈夫なのかということ、バランスを考えながら使わせる。子どもたちは使いこなしている。つけたい力をつけるためにいつ活用するのか、これでない方法はないかを見極めていきたい。
- ・昔は進路の選択肢はあまりなかった。今は公立でも私立でも、選択肢がいっぱいある。自由に選べるということは、子どもにとっては逆に厳しい。いかに自分で選択できるか、選択できる力をつけてやらないといけない。社会でも言われているが、これからは、今ある仕事がAIによってなくなり、新しい仕事が出てくる時代。
- ・町づくりでいうと、今入ってくる職員は優秀な人が多い。ルーティンワークはずば抜けている。与えられた仕事は完璧にこなす。でもそれだけではいけない。自己調整力をトータルで身につけていることが大事になる。街づくりは計算でできるものではないので難しい。発想力など、人口が減っていく中で必要なことがたくさんある。
- ・丹後学、久美浜を支える人作りが重要。
- ・高龍小は、地域の人と探究的な学びをしている。地域で活躍している人の話を聞き、今の子どもたちはしっかりとまとめる。いろんな資料も綺麗にまとめる。外部講師の人に来ていただいた。今の久美浜に必要なこととして子どもたちが考えたのが空き家問題、地域のゴミ問題、UターンIターンについてだった。こんな良いものがあるのに、なんでこんなに人がいない。こんなによいところがあるのに空き家が多い。話を聞いて子どもたちがプレゼンを作り、また講師に見てもらいやり取りをした。例えば、川上は自然豊かで遺跡もある。動画を作って発表した。本当にこんなものを子どもが作ったのかというようなものを作った。子どもが考えたのが子ども食堂ではないが、学校給食を地域の方に振る舞うことができれば面白いのではないかということだった。講師の人が、そのアイデアもらっていいかという話になった。子どもの考えにボールを投げてくれる地域の方がおられる。地域の方とコラボをすることで、学力だけではなく、久美浜のことを考えて何ができるか学ぶことができる。ほんとに実現するために何ができるのか考えてと言われた。6年生から中学校へ行き、どうしているのか簡単ではない。コメントをもらって学びが深まっていく。求められているのはここ。教師も学び続けなければならない。

- ・タブレットを使いこなすという話が出たが、これで学習することが100%よいのではない。子ども広場をやっていて、何が一番印象に残ったかというところ、お手玉を作ったことだった。普通だったらあずきの中に入れるのだが、そこらに生えとる実からお手玉を作った。それを教えてもらってすごいと感動した。実を乾かしてお手玉にした。端切れももらって作った。地域ならではのことで知恵をかしてもらいたい。お年寄りや中学生から知っていることを教えてやって欲しい。小学生は教えてもらって、そういうやりとりをして欲しい。
- ・今、介護の仕事をしているが、昔の話も結構している。いいものだったら、それを残していくことも必要ではないか。いろんな人がいて、いいものを持った方がおられる。
- ・タブレットもいいがどうかと思うこともある。
- ・我が子が中学校の先生をしていて、いろんな話をしていて、状況も聞く。昔は親が先生に言ってくることも少なかったが、今は違って、一時期、保護者との関係でずいぶん悩んでいることもあった。やめるなよと言ったこともあった。学校の状況が変わっている。そういう状況を誰もが把握していかないといけないのではないかな。授業をなんか見ている、頭がいいだけじゃあいけないと思う。何かの知恵をつけないと生き残れない時代、良いところに勤めてもやめる人もいる。いろんなことが言える時代、いろんなことを学ばなくてはならない。
- ・ICT（タブレット）を使いこなせないといけませんが、ICTに全てのみ込まれたらいけない。地域だとか地に足をつけてつながれることが大事。コロナ以降、地域を組み入れてやっている。他と繋がって心地よさをいかに感じられるかが大事。異年齢のつながりを大事にしている子ども園でいろいろなことを考えさせてもらっている。子どもの文化を学んでいる。
- ・教育目標に「ふるさとを愛し」が最初にある。ふるさとっていいなと子どもはどうしたらそう思えるか。まず学校がおもしろくないとダメ。次は、家庭。そして地域、地域が自分にとって良くなかったらいけない。こんなことがあったな、あんなことがあったなという経験の積み重ねがあって「ふるさとを愛し」ということになる。保幼小中で感性をつけてあげる。小さい時の経験、体験、感覚が大事。学校、家庭、地域が大事。
- ・子どもの時に体験、原体験を持っている子なら、しっかりした日本を作っていくと思っている。久美浜学園の一貫教育は都会の方の進学のための一貫とは違って、学力偏重でなく、素晴らしいと思っている。こういうふうで育った子どもたちが社会を作り街を作っていく。素晴らしい教育をされているなと思うしありがたいと思っている。
- ・京丹後市の歌「ふるさと色は君の原色」というのが好き。ふるさとでの体験が自分の原点になって、大人になっても帰ってこようとか、違うとこにいるんだけど心はふるさとにある。
- ・久美浜に育って、車のナンバープレートも久美浜にしている。子どもも嫁さんを連れてよう帰ってくる。食べ物美味しいという。
- ・出て行っても帰ってくる人もいる。久美浜の人は、愛着心がすごい。

2の2グループ協議

- ・神野の見守り活動は、自治会の生活安全部会がしている。今年は9人だが、7年度は2人増えて11人になる。どこかの集落にもいてもらう。ほとんど毎日、登校班について歩いてもらっているのがありがたい。
- 田村とかけもちで月1回、交通立ち番をしておられる方もおられる。神野の立ち番の時はセーフティネットワークの日として活動しようということになった。いつもは駐在所のところであいさつをする。府道108のところでは、プラカードを持って交通啓発をするということになっている。
- ・土曜お楽しみ会は、4年間のコロナでできなかったが、今年は5年ぶりに予定通りの回数で活動ができた。異学年で活動できるのが大きなメリットだと考えている。来年度の事業計画はできていて、PTA総会で配ってもらうことになっている。今年度の活動内容は、陶芸教室、自転車教室、お泊り会、料理教室（食生活改善推進協議会との共催）、もちつき大会、バレンタインのチョコレート作りなど。来年度はもう少し増やしていきたい。
- （子どもの姿）
- ・理解はするんだろうが何回言っても聞けない子がいる。ポケットに手を突っ込む子がいる。おされたりしたときに身動き取れないし、こけたら顔から落ちる。また、店でこの癖が出て何か持っているとき疑いをかけられることもある。よくできることは褒めてやる。できないことをできるようにしてあげる、それが私たちの役目だと思う。ただ、言ったことが聞けないというのは意識がない。そこが気になるところ。
- チョコレート作りとか料理教室の時は、できるだけ家族でするのではなくバラバラで活動してもらう。自分の子は見られないけど、他の子を自分の子と同じように見る。そんな中で、あかんことは、「だれだれちゃんあかんよ」とか「こう言っとんなったよ」と言ってもらえれば、少しずつ成長するかなと思っている。
- 年によって違うが、人の話が聞けないなというのが気になる。取り組んで頑張っていこうという気持ちを持っている子に励まして自信を持たせていこうとするが、課題のある子に目がいつても多い。そこは、ケースバイケースで仕方ないと思う。
- 子どもたちを見させてもらうというのは自分としてはうれしい。低学年だったら何年かやっていたら成長してくるのでこちらは見守りたい。
- ・「自分のペースでやりたいことをさせてくれ」という子かも知れない。そういう時は見守ってやりたい。いろいろな子がいて、今は大学生になっているけど、お泊り会で温泉に行ったときに1人で騒いでまわり中に迷惑かけた子がいたが、あくる年になったらバスの中で全く騒がなくて、バスを降りてから「どうした」と聞いたら、「ぼくは去年、みんなに迷惑をかけた。だから、今年は静かにしていた。」と。ある程度言わなくてもいい。

- ・お楽しみ会は実行委員長と私と学校のサポートと5人でやっている。PTAが母体でPTA会員さんも何人かいて、そこにサポートしてくれた人がいたからできた。今すぐ実行委員会をつくろうと思っていない。サポートしたいという声が出たら、委員になってもらう。
- （あいさつ）
- ・自ら「帰りました」とは言わない。「お帰り」というと帰ってくる。「おはよう」と言ってもかえってくる子とかえってこない子がいる。待っている子が多い。
- ・甲山だけど、子どもが帰ってくる頃に顔を出し「お帰り」というと大きな声で「帰りました」というからまだいいかなと思っている。最近、セーフティネットで他の地区が登校するのを見ているが、「おはよう」って言う子と何にも言ってくれない子とあるなあと思う。「何にも言えへんねえ」という論議はしていないけど、お互いのコミュニケーションを取るための力が弱まっているかと個人的には感じている。
- ・あいさつ運動の時に合わせて立ち番した。おとなしい子もいる。学園のあいさつ運動の日に合わせて立ち番しようということになっている。一緒に歩いている方は、ちゃんとコミュニケーションは取れているのだろうと思うが、ひと月に一回、おじさんが声をかけてもあいさつはできない。同じ神野の中なので、自治会としての役割も大きいかなと思っている。
- ・雪が降って、ちょっと雪遊びをしたり、魚釣りをしたり、サッカーをしたりしている。男女関係なくしている。
- ・朝、立ち番したときは、あいさつがかえってくる子もかえってこない子もいる。話しかけても目をそらしてしまう子もいて、こちらがショックを受けることもある。話しかけても中身が分からないような子もいる。自分も子どもの頃はどうかだったかなと思うが、大人もハラスメントということもあるので、強く言えない。地域の大人に強く言われたりすることにも慣れていない。
- ・今は、叱ったりしたら悪い印象を持たれるということも多い。「なんであのおばちゃんに言われんなん」と思う。わしらの時は、他の人に叱られてあかんのだなあと思った。今は、言う人もおらん。行事に参加した親も、知らん顔して注意しない。自分が悪者になりたくない。この場を過ごせればいい。親が、コミュニケーションをはかれる場に出向いていけないといけな。友だち同士でラインとかあるけど、機械的なもので生の言葉じゃないし、スマホも持たしてどんどん悪くなる気がする。親が、子どもの成長していくところを見逃しているのではないか。子どものいいところと悪いところに知らん顔している。親との会話が少なくなっている。親が見本を見せること、親同士の会話やつながりが大事。
- ・神野の子育てサロンは年7〜8回しているが、叱っておられるお父さんやお母さんを見ることもある。親が悪いと言ってしまったら連鎖してしまってたんだん悪くなる一方。社会的な流れもある。長い目で見ていくこと。
- ・夏がどんどん暑くなっている。変な方向にいったくないか。
- ・この夏は、行事を縮小している。学校も、何かあったとなると困るので安全第一になる。ブランコは、立って乗るな、跳ぶな、プールもあかんとなる。
- ・夏は暑いからプールで泳ぎましょうということではないのか。暑いから歩いたらあかん。バスに乗りましょうとなっている。この子たちが大きくなった時、どこかでへし折れないか。何か、空洞になっていないか。
- ・思い出をつくるということが支えになるのではないか。わしらの地域はこんなことがあった思い出としてインパクトを与えることが大事。
- ・わたしらも年をとったら支えてもらわんな。そのためにも子どもたちとつながりをつくっておく。お父さん、お母さん、子ども3代をつないできている。思い出を作りたい。
- ・親と学校と関わる場を作っていくか。どういう子どもを育てていくか、話ができる機会があることがベスト。自治会の代表とか見守り隊とか、民生委員とか、校区で学園の小さいバージョンをつくる。そこで話ができる場を作る。神野は自治会長がおられるからわかって、川上、佐野のことはわからない。こういう連携ができるのがこの協議会と違うのか。校区でも学校でも、こういう話す場が必要。
- ・最終的に子どもたちをこうしていく、代表だけでなくもっと下から話していかないといけない。

3の1グループ協議

- ・ここ何年間、かぶと山小の子どもたちは落ち着いているなと思う。今年1年間、地域でも学校でも落ち着いて生活していて学習を深めている。何でも言えて安心できる雰囲気づくりをしておられる結果だ。運営協議会でも学校応援団としての役割も少しずつ果たせている。ここで出される意見がたよりになって先生にも地域の人にも伝わるので、落ち着いている要因かなと思う。
- ・行政という立場では子どもと関わるのがあまりないので、その立場での意見を出せないが、普段社会体育で子どもと関わっている。感じるのは失敗を怖がってなかなか積極的にならない。イメージとしては正解でないとダメとなぜか思っているふしがある。我々が言うのは失敗や間違っていることがダメではない、何もしないことがダメだと伝えるがなかなか分からない。学校では積極的に発表しているようだ。
- ・目が悪いというのは不便だなと思う。丹後全体でも眼鏡をかけてプレイする子が1/3いる。小、中学生の男子バレーをやっている。市でも中学校の男子バレー部はない。
- ・行き帰りの挨拶がしっかりできる子が多く気持ちが良い。おとなしい子にはこちらから声をかけ、何回かすると声が出るようになる。あまり外遊びをする子がいらない。雪遊びもしない。昔みたいにワイワイ声がかかることがない。孫がいるが、カバンが重くて何が入っているのか、私たちが持つのも重い。こんなに重かったら背が伸びないと言っている。タブレットの授業になっているのになんでかなと思う。ゴミ出しの時なんかは子どもたちを見ている。見守り隊の方が、地域、地域にいらっしゃる。交差点でも見守りをさせていただいてありがたいと思っている。

・小1の子どもが深い雪の中を学校へ行っていたかと思うと訓練になっていた。今は、バスで行っている。家からバスまでは歩くが、歩いている子を見かけない。昔はすごい列をなして歩いていた。豊岡の小学校は延々と歩いている。久美浜は歩いていない。昔はよう走った。1年から6年まで全学年そろっていて、1学年で複数いるとかいう時期もあった。通りで遊ぶとか見かけない。かといって、学校のグラウンドでも見かけない。何をしているんだと思う。昔は自転車でうろうろしている子もあった。ここには何々があったと大人が教えることもあったが、今はそれもない。地域のこともわからない。友達の家に行くこともない。ゲームで通信をしている。5時になったら「黙って遊ぶから」と、誰か知らん人がゲームに入ってくる。北海道の人が入ってくる。誰かと繋がっている。

・雪がめっちゃ降って外で遊んでいる。ソリなどを楽しそうにしていた。全く外に行かないことはないが、狭いところでサッカーをしたり、遊具だとかで遊んだりしている。校区は広いので地区、地区で遊んでいる。グラウンドに遊びに来ることはあまりない。夏休みに1回だけグラウンドで遊んでいて、ちょっとしんどいとたまたまいた先生に言いに来たことがあった。夏が暑くて、外で遊べる時期が限られてきてきた。

・失敗を怖がっているという話があったが、なんとか本校も変えていきたいと思い、テーマをトライアンドエラーにしている、子どもたちが言ってきたことはできる限り応援するという姿勢でいる。安心してチャレンジできるように。中学校の本校の出身の子がチーム給食をやりたいと中学校で言って実現したそうだが、小学校でチャレンジをやってきたかいたがあった。失敗を怖がらせない雰囲気にしていきたい。

・視力低下、画面を見ることが多く、テレビでYouTubeが見られる。延々と流れている。環境がそうになっている。外国では外で太陽の光を浴びるというようになっているので、学校でも進めていかななくてはいいけない。

・ケーブルテレビで久美中の行事とかカットされている感じがする。去年の卒業式で校長先生が良い挨拶をされたというのに、そこだけがカットされていた。体育祭も良かったのにカットされて、なんでかなと思っている。小学校は順番があって、中学校も順番になっていると思う。ずっと最近ない。ケーブルテレビは、年配の人はよく見る。

・この頃、学校から早め早めに帰る。帰りの時間が一定しているから、何時に遊びに行けると約束しやすい。先生方の仕事もできる。うちの村で言うところこう遊んでいる子がいる。習字で公民館を解放しているが、集まりやすくなっている。去年に限って言うと、5時半ごろまで田村小のグラウンドに何人かいる。それがバス通の良さでもある。

・保護者アンケートで帰ってから他の学年の子どもと遊ぶことが増えましたとの声があった。バスで遊ぶ約束をするのか。犬を飼っている人が散歩しているところに何人かの子が集まっていくということもある。子どもを外で見かけるのもよい傾向だ。

・不登校が中学校の課題。そこらを見ていても前向きになっている雰囲気もある。地域、校区の課題でもある。少しずつ成果が上がってきている。

・雨が降っても遊べる場所、以前は、雨が降ったらだれだれちゃんちに遊びに行く。それがなぜなくなったかと考えたときに、それぞれの家庭がよその子が入ってくることをよしとしないという流れで、誰のところにも遊びに行けないということがないか。晴れているときはいいが、雨が降るとどこにも集まる場所がないねということになる。

・おじいちゃんおばあちゃんがおられて、帰ったらその家で遊べるという家が少なくなっている。大人が誰もいない家には集まって遊べない。

・うちの村は逆で、子どものいる家はおじいちゃんおばあちゃんがいる。子どものいない家は、みんな独居かお年寄り夫婦2人。居場所で言うと、田村小学校のところは、たぶん中学生のたまり場になっている。いいか悪いかは分からないけど、湊から自転車で来て遊んでいる。

・うちの孫は、湊の体育館の申込みに行って、カギの番号を聞き、体育館を借りて遊んでいたことがあった。男の子たちがバスケットをしたりしていた。

・ガラスを割りましたと自治会長さんに謝りに来たこともあった。

・子どもの小さい頃にあったが、悪いことをしてその場で言わないで、学校で言って、学校から親に連絡が来るということもあった。悪い時は子どもにその場で言わないといけな。挨拶だけでなく、それはダメだと声をかけてやるのが地域の役割かなと思う。近所のおっちゃんに怒られたということは、見てもらっているんだなと子どもが安心感を感じることにならないか。そういう地域にしていけないといけな。

・学校も事実をもとにしていてもらえるのもありがたい。

・久美浜は、子どもの減る率が少ない。かぶと山こども園でもすごく減る感じではない。峰山や大宮は新しい住宅が増えている。網野は減る。企業がなくなって、どちらかというと観光的なものが主になっている。

・久美浜は人口の減る率が少くないか。それも地域の強み。移住者も多い。久美浜の新しい住宅地で30あった区画がほとんどどうまった。新しいアパートもオープンしてけっこう入っているらしい。若い方もあり子どももいる。市の中でも久美浜は、移住者が多いのではないかな。空き家も多いが。

・うちの地域でも、20数件で広がりようがないが、意外と軒数が減っていない。誰かが帰ってきて住んでいる。帰ってきている人を見ていると、祭りをしたくてとか、祭りには帰ってくるということもある。

・久美浜で育った子が、ふるさと納税をしてみようかと思ってくれるのもよい。地域の良さを見せていくことが大事だし、地域づくりをしていく上で、そういう見通しを持っていないといけな。

・企業だけに頼る時代ではないのかもしれない。地域の良さを知っていることや起業する教育が大事。起業している人の話をもっと聞かせること。

・久美浜のある地域は移住者が多い。戸数の率からいうと市でNo.1。目的を持ってこられていて、地域に溶け込んでおられる。SNSなんかで、ここ住みやすいとかすぐ住める家があったりするのもよい。市の空き家バンクもあるし、今すぐ使える家もあるが、市全体では、なかなかのようだ。

・大きな企業がきて働ける、そこに就職するというわけではない。自分で考えて、答えを見つけて進んでいくということが大事ではないか。

・大人が、「久美浜なんか」と言っているのはダメ。観光地としてはとてもよくて、観光にかかわっている方は、河梨をおりてきたときにこんな良いところはないと言われる。また、かぶと山の景色は最高。久美浜の人間はいい。優しいし、厚かましくないし。買い物も豊岡に行ったりする。そういう立地条件がある。豊岡も企業もあるので、住んでいるところと働く場所が同じでなくてもよい。

3の2グループ協議

・チャレンジ教室を23年やっている。毎週土曜日やっている。子どもたちがずいぶん変わってきた。叱っているのか、叱ったらいけないのか分からないときがあって困っている。今年は20回ぐらいできた。3月は3回予定している。10~20人の子どもが来る。居場所を作ろうというのが目的。長いことやっていて青少年健全育成の関係で表彰してもらった。神野の子どもたちが楽しく過ごせている。もう20年しているので、子どもたちも大きくなっていて手伝いにも来てくれることもある。スタート当初（平成14年）、学校5日制になって、当時の公民館長に「何かやれ」と言われ、地域で子どもを見守ろうということで始めた。小1だった子が30歳をこえる。最初は、学校も関わってもらっていた。校長先生が実行委員長だった。

子どもたちも変わってきた。巣箱を作っているとき、1人の子が将棋をし出し、叱ると拗ねる。どうこっちに向けていいか分からない。前からかわからないけど、拗ねて帰る子もいた。子どもたちへの知らせは学校にお願いしている。グループで勝手に実行委員会を作って運営している。京丹後市で5つか6つあると思う。毎年同じようなことをしている。

・たよりの写真を見ていると、年越しそばやもちつきをしているが、家でもしないので、地域でももらえるのはよいことだと思う。

・保護者のかかわりは、1年生とかは来られるが、3年生ぐらいになると、「お願いします」と言って預けて帰られる。

・協議会は2回来させてもらった。こども園では、例年通り行事はやっていた。保護者の方も60家族ぐらい来られると思うが、今でも顔が覚えられない。あいさつが少ないと感じる。子どもは親の背中を見て育つ。親がむすっとしていて子どももあいさつをしない。親が声かけをしないとダメ。子どもは、汚い言葉を覚えたりする。言葉遣いや挨拶は、「いろはのい」、挨拶ぐらいちゃんとして欲しい。昔、畑のおっちゃんおばちゃんに「帰りました」と言って覚えてもらったりした。うちの子も小学校4年生がいるが、海士まで歩いている。体調が悪くて10日ぐらい休むことがあったら、近所のおばちゃんが電話をかけてきてくれた。「いつもあいさつしてくれるのに、どうしたん」と心配してもらった。見守り隊の方でも何でもないので覚えてもらっているんだなと嬉しかった。せめて親も挨拶している姿を見せてやってほしい。園の活動については、1年間やってよかったと思う。

・中学校は、ここ数年は200人のままだが、10年後はほんと減る。高校はみんな入れる時代が来る。だから、何のために高校へ行くのか、ちゃんと目標を持って行かせたい。保幼小中10年間で考えていかなければならない。

・コロナ明け、前と同じ感じで行事はできている。今のところみんな協力的で「やりますよ」と言ってやってもらって助かっている。月1回の挨拶運動は各専門部が学校の正門に立ってもらっている。挨拶は昔と一緒にかなとも思う。親がしとってもしない子もいて、恥ずかしいとかいろんな理由もあって、今も昔も変わらないのかなと思う。叱り方も小さい頃から親の影響がある。手を上げることや力でねじ伏せるということはない。どういった考えで今の保育や教育はやられているのか？

・今の保育は20年前と本当に違う。私たちが仕事についた時は時間割りの設定があった。私たちがこれをするというものを決めて作っていた。今はそうではなく、子どもの「やってみたい」や何に興味を持っているかを、保育者は一緒に遊ぶ中で探る。こういうことに興味を持っているのだなということを花が開くように仕掛けをしていくという教育に変わった。叱るとかあいさつのことも出ているが、命にかかわることなどは叱るが、ほめて伸ばすということが基本になる。先生方も言葉を選んで接するから、気を使う。先生がこう言っていたけどどうなんですかと言われることもある。挨拶も取り組んでいる時は大きな声です。普段からそうかということ、そうではなく、こちらから挨拶しても誰に言われているかわからないという顔をされる保護者もある。わざと「だれだれさんのお母さん、おはようございます」と言ったら、「おはようございます」と言われる。みんなにとっての当たり前ということはないなと切々と感じる。保育所は、子どもたちが大きくなっていく根っここのところなので、子どもたちが元気で自立して育つための基礎基本をあずかっていると思っている。1人立ちして生きていく力というのは、地域の方にも協力してもらわないといけない。まだ久美浜は核家族がそこまで言っていない。半数までいっていない。同居でなくても敷地内におじいちゃん、おばあちゃんがおられて、まだ寄り所があってありがたい。

・だいたい前から褒めて育てる、力でやるというのは良くないということになっている。ただ、叱られてないから叱られることに弱くなっている。叱られると立ち直れない。そこが難しい。

・子ども同士のトラブルは起きる。不適切な言葉を使っているときは、考えさせるようにしている。久美浜の子は穏やか素直で優しい子が多い。地域も温かい。一人だったらできないこともあるので、そういう力をつけてやりたい。

・好きなことを見つけて伸ばす。そればかり伸ばすのでは良くないのではないかな。子どもたちがやりたいところに向かうが、一応ねらいを持った上でそこへ向かわせる。1週間継続して続けることもあるし、枝別れすることもあるし、プツンと切れることもある。

・汚い言葉も使わなくては分からないということもあるし、それはあかんよではなく、こういう言葉の方がいいよという言い方をする。

・チャレンジ教室でも、ゲームを持ってきたいと言ったり、余分なお金を持ってこないと言っても、自動販売機で買ったりする。教育現場ではないので、強い指導にはならない。でも、来る。居心地が良いようだ。

・子どもが少なくなる。わかっているが想像がつかない。久美浜小校区は久美浜だけ。他の2校（小学校）は複数の学校が一緒になっている。久美小は2年が23人、その下からグッと減る。13人とか12人とか。4月から3歳が1番少ない。人数が多い方がやりやすい。友達関係も少ないと固定してしまう。どうなるかわからない。10年と言わず、かぶと山こども園と一緒になるかもわからない。難しい問題である。

・中学校は、叱ることは叱るが声を荒げることはないし、体罰は当然しない。なんでこういう行動をとっているんだということを配慮しつつ、その子に考えさせる。人との関係があると、その子とのトラブルについて考えさせる。叱り方は色々あるが、叱ることは悪いことではない。命の危険だとかいじめだとか。だけど、教育の中で指導が全面に出ていた頃から、支援（発達支持的生徒指導）に変わってきている。寄り添いながら伴走しながらということになっている。決まりだからダメというのではない。学校の決まりも生徒会が見直している。自分たちで考え、クラスの生徒にも学校にも投げかけて、自分たちで考えて作って行く。だから守る。とんでもないものも出てくる可能性もある。嬉しかったのは教師が思っているよりも、子どもたちがここはこうだから守りますということになっていったこと。本部の子がクラスで提案すると、こうしてほしいということが出てくる。あかんことはあかん自分たちで納得したら守れる。先生が思っているより子どもたちは考えている。

・保育所でも、ルールは自分たちで決める。何がしたいというところから、こうやった方が面白いと決めていく。年代に応じて、地域から田舎もんで純粋なところがある。府から偉い人がきて保育所で研修したとき、久美浜の子は穏やかだと言っておられた。都会は、もっとトラブルが多いということだった。

・今年は、暑いし熊も出だし、ほとんどがバス通学になった。中学校では、7割がバス。地域で子どもたちにあひさつする機会がない。

閉会挨拶（副代表校長）

1年間の久美浜学園の取組を聞いていただいて、その後、グループ協議ということで取組交流をしていただきました。久美浜学園の子どもたちに、今後10年でどんな力をつけたいか、どんなふうに育ってほしいかというところから、じゃあ、子どもたちが育つためには、学校が何ができるか、保護者が何をしなければならないか、地域で何ができるかということの話をさせていただきました。もっと言うと、学校としては保護者や地域にもっとこうして欲しいと言えなくてははいけないし、地域はこうするけど、学校はもっとこうしてくれと言い、保護者は学校と本音で話すということがないと、子どもたちを育てている環境をより良くしていくことは難しいということをお話していただきました。その中で学校運営協議会は、各団体の代表の方がお集まりいただく会議ですが、実際に子どもと関わって子どもを育てていくのは、それぞれの組織に属されている方たちだということで、学園としてまとまるこの組織も大事ですが、学校園所単位とした大勢の人が集まれるような場で子どものことを論議できると良いのではないかとこの話をさせていただきました。次年度以降、そのような動きも考えていきたいと思っています。1年間の、この会へのご協力に感謝すると同時に、引き続き、来年からのご協力をお願いいたします。

閉会挨拶（副協議会長）

1年間、ありがとうございました。また引き続き来年もよろしくお願いいたします。来年度、今後の10年をどういう方向でやっていけたら良いか、子どもたちをどう育てていくか。私たちと違った時代、AIとかコンピューターとかだいぶ変わっているので、どういうふうに導いたら良いのか、なかなか難しいと思います。行政も、地域公民館がなくなり、自治会にそういった役割が投げかけられている中で、地域の社会教育部門で、どういうふうに子どもたちに楽しい環境を作っていけるか微妙かなと思っています。二区子ども広場、チャレンジ教室、土曜お楽しみ会のように、子どもたちが楽しい会話をしながらふれ合えるという環境を地域で創れるのかということが重要なと感じました。今日はお互い気楽に交流ができてよかったかなと思っています。来年も引き続きよろしくお願いいたします。